

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

令和7年12月26日に2025（令和7年）度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（2026年1月～6月の見通し）が発表されましたので、その結果等を元にした本県海域の予報をお知らせします。

■ 海 況

黒 潮：令和8年3月までC型で推移し、その後はN型基調となる。

（説明）令和7年7月～11月中旬にかけてC型基調で推移し、その後はB型流路となった。

ただし、8月中旬に小蛇行の東進に伴い潮岬で離岸し、9月中旬には一時的なA型流路となった。

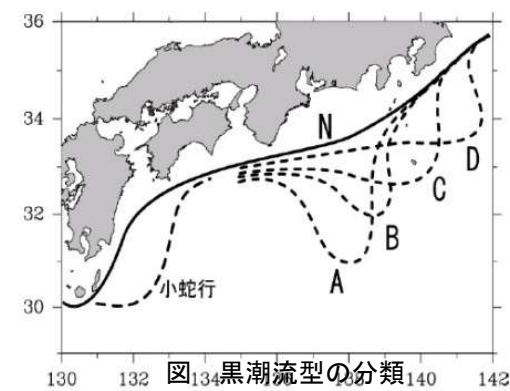
沿岸水温：相模湾は「低め」～「平年並み」で推移し、暖水波及時には「やや高め」～「高め」となる。伊豆諸島海域は、令和8年3月まで「低め」～「やや低め」で、その後は「やや低め」～「高め」で推移する。

（語句説明）平 年 並：平年値±0.5℃程度

やや高め：平年値+1.0℃程度

高 め：平年値+1.5℃程度

極めて高め：平年値+2.0℃程度



■ さば類（マサバ、ゴマサバ）

来遊量：不漁であった前年並みか若干上回る可能性もある。

（説明）マサバ太平洋系群の資源量は2000年代以降増加しましたが、1970年代のような増大とはならず減少し始めています。ここ数年の神奈川県沿岸での漁獲量の低迷は、黒潮大蛇行の影響で伊豆諸島海域へのマサバの南下が妨げられたことが原因とみられます。蛇行が解消した今漁期の沿岸へ来遊量は、資源の減少と南下群の増加のバランスに左右されるでしょう。一方のゴマサバは低水準で推移する資源量に呼応するように、昨年下半年の本県沿岸の漁獲量は引き続き低調でした。

これらのことから、東京湾～相模湾に1月以降来遊するマサバ・ゴマサバが大きく増加する要素は見当たらず、引き続き厳しい予測となりました。

一都三県さば漁海況検討会の調査から、魚体サイズの範囲はマサバ：尾叉長28～41 cm（体重300～1000g）、ゴマサバ：29 cm以上（300g～）となるでしょう。



■ マイワシ

来遊量：前年並から下回る。

（説明）本県における2025年7～11月の主要定置網漁獲量は前年の303%、平年（過去5年平均）の386%でヒラゴ～小羽サイズが主体でした。

マイワシ太平洋系群の資源量が2022年以降減少しているほか、2025年4月に黒潮大蛇行が終了したことによって、産卵親魚の行動に変化があるかも知れません。そのため、1～6月は産卵親魚主体で漁獲量は前年並から下回ると考えられます。



■ カタクチイワシ

来遊量：前年を上回るが、引き続き低調で推移する。

（説明）本県における2025年7～11月の主要定置網漁獲量は前年の13%、平年（過去5年平均）の2%でした。

2026年1～6月は、近年の傾向から被鱗体長7～10cm程度の0～1歳魚が漁獲の主体となるでしょう。カタクチイワシ太平洋系群の資源量は2023年以降増加していますが、2023年の漁獲量は46トンと過去10年間で最低であり、前年は51トンとやや増加傾向にあります。そのため、今漁期の漁獲量は前年を上回るが引き続き低調と考えられます。



■ マアジ

来遊量：前年並の好漁を期待

（説明）相模湾（西湖）定置網の2025年下半年の漁獲量は、前年（2024年）下半期、平年（過去5年平均）ともに上回りました。近年の傾向より下半期は、銘柄ジンド～小アジサイズの当歳魚が漁獲の主体となるのですが、2025年下半年は、当歳魚に加え1歳魚以上の漁獲が多くなりました。

上半期は、4～6月の産卵期を中心に1歳魚以上が漁獲されますが、マアジ太平洋系群の資源量が増加に転じた2023年以降、2024年、2025年と上半期の豊漁が続いています。

2026年上半年は、2025年下半年の傾向より、成長した1歳魚に加え、2歳魚以上の産卵親魚も多いと思われることから、前年並の好漁が期待できると考えます。

